

素材で見る県内の橋 「石」

（石橋について）記ローマ時代の水道橋に見られるように、石は古くから橋の材料として用いられてきました。とりわけ九州は、江戸時代を中心に作られた石橋アーチ橋の宝庫で、日本全国の石造アーチの90%以上が九州にあるといわれています。石は木に較べて耐久性が良いのですが、造る作業が機械化できず、造る手間がかかるので現在はあまり用いられません。また、引張る力に抵抗できないので、もっぱら圧縮で抵抗するアーチ橋が多い訳です。。



本谷昭和橋（日向市）

日向市街地を東西に流れる富高川の上流、本谷に昭和橋は架かっており、県北でも珍しい3連アーチの石橋。使われた石はすべて門川町内から切り出し、馬車で運搬したといわれ、橋の風景の美しさ、また歴史的な石橋の様相から昭和62年9月30日、日向市の有形文化財（建造物）に指定されています



めがね橋（えびの市）

橋長58mもある宮崎県で最大の石橋。めがね橋は熊本営林局が川内川最上流の木材を吉都線飯野駅まで搬出するため、トロッコの軌道用として昭和3年に建設された石造三連アーチ橋です。平成10年9月25日国登録有形文化財に指定されています。